

# クリキンデー

2013.  
3.11  
vol.10



クリキンデー第10号<記事一覧>

## 【特集】第2回 冬のさめき修学旅行 ～ご協力ありがとうございました！～

- 冬のさめき修学旅行（参加OBからの活動報告）
- 愛染寺とパラグアイ（長澤一秀 前JICA四国支部長）
- JICA四国支部長着任あいさつ（水谷恭二 JICA四国支部長）

# 冬のさめき 修学旅行2013

今年も思い出いっぱい！

昨年1月、「東日本大震災で大きな被害を受けた東北地方の子どもたちに、元気に楽しい時間を過ごしてもらおう！」と、岩手県と宮城県の中学生を香川県へ招待し交流を行った「冬のさめき修学旅行」。遠路はるばるやってきてくれた子どもたちからは逆にたくさんの元気をもらい、頑張る東北の人たちのことを考えるときには自然と彼らの顔が浮かぶようになりました。

その素敵なお縁のおかげで、前回参加してくれた岩手県釜山市立大平中学校・大平ソーラン実行委員会のみなさんの後輩である中学2年生20名を招き、第2回目の「冬のさめき修学旅行」を開催することができました。今回は地元の国分寺中學生との交流の機会を作るなど、たくさんの方々のご協力をいただきながら、より有意義で思い出深い活動となりました！

### 第2回 冬のさめき修学旅行

とき | 平成25年1月11日(金)～14日(月/祝)3泊4日  
主催 | 香川県青年海外協力協会・独立行政法人国際協力機構(JICA)四国支部

参加者 | 岩手県釜山市立大平中学校・大平ソーラン実行委員会2年生19名&引率者4名、香川県高松市立国分寺中学校サッカー部1年生20名&引率者1名、OB会メンバー&家族20名(県外OBの参加も)、JICA四国スタッフ3名 総勢68名





# 参加出来なかった人でもわかる 冬のさめき修学旅行ってこんなん。



## そもそもなんでこんなったん? 開催のきっかけ

渡辺 香里  
平成15年度1次隊 音楽 (ヨルダン)

2011年3月11日、忘れることなど出来ないあの日。あれから私に出来ることは何か、今でもずっと考え続けています。

それまで個人的にボランティアに入っていたものの、震災から半年がたち、何か違ったやり方も考えなければと思い始めた頃、チャンスが訪れたのは11月でした。勤務先のJICA四国で、震災復興支援に携わるOBに支援経費が支払われるとのこと。そこで思いついたのが、東北から被災した子どもたちを香川に呼び寄せる、この「冬のさめき修学旅行」でした。

私の思いに快く賛同して下さった、当時の長澤JICA四国支部長。そんなことならやりましょう！と自ら引き受けてくれた高橋OB会長。私の思いつきに2人が賛成

してくれたからこそ実現出来たこの企画です。第1回目は、JOCAの国内協力隊として東北支援に携わるOBを頼りに、3校から19名の中学生を呼び寄せることが出来ました。私たちには想像することも出来ない思いをした子どもたちに、何も不安に感じることなく、とにかく楽しんでもらいたい。と思い、たくさんの香川県OBの協力のもと実施したこの企画でしたが、何事も一生懸命に取り組む子供たちから、私たちが逆に元気をもらう結果となりました。

「一度やり始めたことは3年続けなければ意味がない」という長澤前支部長の言葉の意味を身をもって実感しながら、今年の第2回目開催が実現しました。そして来年の第3回を一つの節目とし、私たちに出来ることは何なのか、これからも考え続けていきたいと思っています。



大平中学校の伝統として、生徒全員がソーランを覚え、3年間踊ります。生徒達の中でも各学年で中心的な立場で大平ソーランを受け継ぐ活動をしているのが、「大平ソーラン実行委員会」。部活動とは別に、朝・昼休み・放課後部活前などにコツコツと厳しい練習を重ねています。特に東日本大震災後は、地元の方々や被災された方々に元気を！と各地の避難所等で披露。また今年は、大人気グループEXILE直伝のダンス「Rizing sun」もレパートリーに。何度見ても感動と勇気の沸いて来る力強さは圧巻！お世辞抜きで本当にカッコイイ！今回の旅でも行く先々で、出会った方々に元気を届けてくれました。

1日目

1/11

## 釜石出発！ バス・新幹線・マリンライナー・・・ 一日かけてひたすら移動するのみ！

とにかく釜石は遠い！バスに揺られ列車に揺られ、本州をほぼ縦断して、四国高松にたどり着く頃にはとっぷりと日が暮れます。明日からのプログラムに備えてホテルでゆっくり。夕食にはなんとフルコースが登場！ちょっと張りながら味わったようです。お世話になったリーガホテルゼスト高松はOB若宮さんのお勤め先。宿泊の準備から宿直までサポートありがとうございました！！





# おいし～いさぬきを全身で味わう日。 (スタッフ陣もめっちゃウキウキ)



さぬきうどん手打ち体験  
(中野うどん学校高松校)

ハイ  
みんな！よーに伸ば  
して！踏んで♪



OBの多くはこの日からの参加。まずは「うどん県さぬき」をがつり味わうべく、中野うどん学校へ。普段、うどんはあまり食べないという大平中の子どもたち。みんな手打ちは初めてです。名物先生のテンションの高い指導にはじめこそ戸惑いが見られましたが(笑)、次第に空気があたたまり、楽しく座学&実習を修了しました。昼食はもちろん、自分たちで作った手打ちうどん。麺の太い細いご愛嬌♪お出汁の味も自分たちの地域とは違うね～などとおしゃべりしながら会食を楽しみました。

## 是竹みかん狩り体験 (中西さんのみかん農園)

食後の豪華なデザートタイムは、高松市鬼無町でみかんを栽培するOB中西さんの農園にお邪魔してみかん狩り体験。



シッカリ採って  
食べよ～

収穫せずに残しておいてくれたみかんは完熟でとても甘い！みんな夢中でいただきました！昨年も好評だった糖度の高いみかんを選ぶコンテストは今年も大盛り上がりでした。近くのカフェではあたたかいぜんざいのお接待をいただき、ご近所のみなさんにお礼の気持ちを込めて、カいっばいの大平ソーランを披露しました。



大平ソーランも  
お披露目！



## こんぴらさん

2泊目・3泊目の宿泊地は琴平町。旅館を出ればすぐ参道！ということで翌日のリレーマラソン全員での完走を祈願しに、こんぴらさん参りへ。生徒達にとっては数少ない、自由行動の時間。思い思いに散策や買い物を楽しみました。

## チームミーティング

翌日のリレーマラソンのチームでテーブルを囲み夕食を取ったあとは、チームで作戦会議。メンバーの確認や走る順番をみんなで話し合いました。





3日目

1/13

## なんやかんや言うてもいちばん気合いが入る日。 まんのう公園リレーマラソン！ (お天気もってくれて本当に良かった・・・)

いよいよこの旅の最後のメインイベント、まんのう公園リレーマラソン！今年  
は地元・国分寺中学校サッカー部の1年生と一緒に参加してくれました。(引率  
してくださったOBの成田さん、ありがとうございました！)大平中・  
国分寺中みんなでしっかりとたすきをつなぎ、出場した4チームとも  
完走することができました。先生方・OBランナーたちも、大健闘で  
した！また、選手宣誓や大平ソーラン披露の機会もいただき、会場  
の参加者のみなさんもあたたかい声援を送ってくれました。

国分寺中学校サッカー部  
のみんなが合流！



上を向いて歩こう♪

最後の夜、今まででいちばん気合いのこ  
もった大平ソーランを見せてもらったあ  
と、大平中の生徒達から嬉しい提案が。  
前日の晩にみんなで歌ってくれた「上  
を向いて歩こう」をここにいるみなさん  
と一緒に歌いましょう、とのこと。全員  
で輪になっての大合唱。あったかい、す  
てきな歌声とともに、改めてこの曲の歌詞  
が胸にじんわりと響きました。

4日目

1/14

## みんなが待ってる釜石へ。 楽しい時間と元気をありがとう！

あっという間3泊4日。ついに最終日です。スタッフ一同も琴平駅までお  
見送り。こんなに遠いところまで、きっと本当の修学旅行でも来ないで  
しょう。はじめて見るたくさんの物事やさまざまな人々との出会い、いつ  
も一緒だけど違った環境での友達との交わり、短い時間でしたがいろんな  
経験をして、少し成長した4日間になってくれたらな、と願っています。  
私たちも、たっぷりと若いパワーを浴びて、とっても元気になりました。  
名残惜しいけど、いざ、みんなの町釜石へ！再び長い旅路について大平中  
の生徒達でした。4日間、素敵な時間をありがとう！





## 大平中学校から、素敵なお話をいただきました！

# 舫い

も  
や  
い

「舫い」皆さんはこの言葉を知っていますか？

旅の最終日、大平中学校のメンバーからいただいた言葉です。

『「舫い」とは、船と船をつなぎ合わせる事。寄り合っ  
て一緒に仕事をする事。人と人とを互いにつなぎ止めるこ  
と。そして、地域のつながり「結（ゆい）」の意味でも使わ  
れる。（岩手日報より）』

被災した子どもたちに楽しい思い出を、と始めたこの企画  
は、被災地の復興支援だけでなく、香川と岩手、OB会と大  
平中という、震災という悲しい現実なくしては出会うことが  
なかったであろう、人と人が縁を舫いました。

誰もが予想しなかったあの日、突然の出来事にたくさんの  
人たちが悲しみました。たまたま香川にいた私は、揺れを感  
じることもなく、あの恐ろしい光景をテレビを通して見ただ

けです。それでも涙が止まらず、ただ悲しむだけで何もでき  
ない自分に情けなさを感じ、あれから、私にできることは何  
だろうとずっと考え続けています。

今回、大平中生たちからもらった『舫い』は、ずっと悩み続  
けているその答えを教えてくださいました。

私たちは、あの精一杯の知恵と力を振り絞った「青年海外協  
力隊」になった時から、繋がることの大切さと楽しさを知っ  
ています。悲しさに忘れてしまっていたこの感覚を思い出さ  
せてくれた大平中のみんなに感謝し、これからもこの言葉を  
大切に、私たちは繋がることを諦めず、みんなの力を合わせ  
て楽しいことを作っていきましょう！

大平中のみんな、駆けつけてくれたOBのみんなありがとう、  
第3回をお楽しみに♪（渡辺香里）



スタッフのみなさん、  
お疲れさまでした！

参加OBより

昨年引き続き、2回目の参加でした。冬の修学旅行は、絶  
対に参加したいと思っていました。自分に何かできるわけ  
でもなく、いつも思い出やら、感動やらもらってばかり。  
今年ももれなくありがとうございました。たすきと想  
いをつないで走っていたリレーマラソン。最後の夜旅館で  
魅せてくれた力強い大平ソーランを踊る姿。感動しまし  
た！！来年も参加させてほしいなと既に思っております。  
よろしくお祈りします！

（宮崎歳子/H17-1 幼児教育・ヨルダン）

リレーマラソンだけ、応援団(?)として参加させ  
ていただきました。釜石から来てくれた中学生の皆  
さんの心の中に、うどん県のことが残ってくれると  
いいです。そして、元気で、たくましい大人に成長し  
てくれると嬉しいです！皆さん、来年も楽しいイベントに  
しましょう！

（藤野紀子/H10-1 幼稚園教諭・モンゴル）

ミカン狩りからあとすべて参加させていただきました。全  
体を通して、楽しかったし適度に息抜きがあり、次回も参  
加させていただきたいと思えるようなイベントでした。特  
に、生徒たちの最後の踊りには鳥肌がたちました。東日本  
大震災の後、何かできることはないかと思っていたところ  
、このような形で被災地の子どもたちと触れ合える機会に  
携われたことに感謝いたします。ぜひ、来年もおもしろお  
かしくいきましょう。

（馬場譲/H16-1 病害虫・タイ）

企画、進行、全員参加での盛り上がり最高だったよ！ご苦  
労様でした。また全員で「上を向いて歩こう」歌いたい  
ね！（三好穂/S48-1 自動車整備・タンザニア）

昨年は参加できなかったで、今年初めて参加しました。  
寒い地域の人の肌は綺麗だと聞いていたけどみんな本当に  
肌が白く、ニキビもなくてびっくりしました。話しかけると、  
緊張しながらも笑顔で答えてくれる生徒達に苦労のかけ  
らも感じられませんでした。しかし、1日目の夜のこと。  
旅館の部屋でいると、停電が起こりました。隣の部屋に  
いる女子生徒達は大丈夫かと覗きに行くと、びっくりはし  
ただけで、パニックを起こすことなく、みんな冷静でし  
た。中学生くらいの女の子だと、停電するとパニックに  
なって、泣き出すことも珍しくない年頃なので、逆にその  
冷静さに拍子抜けしてしまいました。後になってこれも  
地震を経験した証拠なんだと気付きました。みんなニコ  
ニコしていて、辛い経験なんてしたことがないように見える  
けれど、地震で私が想像も出来ないような経験や思いを  
し、それがまだ現在進行形なのだ痛感しました。「この  
震災を経験した子供達が次の時代を牽引してくれるはず  
だ。」とニュースで何度か耳にしましたが、正にその通り  
だと思いました。とても頼もしく感じました。まんのうリ  
レーマラソンを走り終わった瞬間は、「もう一生走るもん  
か」と思いましたが、今はまた来年生徒達と走るのを楽し  
みにしている自分がいてちょっと恐いです。来年は今回来  
てくれた生徒達ではない、下の学年の生徒達が来てくれる  
のだと思います。彼らとの出会いもとても楽しみです。で  
も今回出会ったみんなのさらに成長した姿がとても見たい  
です。先生も「今の釜石を見てほしい」とおっしゃって  
いたので、ぜひ復興を続ける地域を見るため、そして生徒達  
に再会するために釜石に行ってみたいです。

（黒田絵美/H21-1 野菜栽培・ポリビア）

釜石の中学生の純粋さが印象的でした。2年生なので国分  
寺中の1年生に先輩として、とても優しく接していたり、  
最後の夜に、感動的な歌を歌ってくれたり誠実さが伝わ  
てきました。（成田拓司/H10-1 理数科教師・ネパ  
ール）

昨年続き、今年も東北の子どもたちにみかん狩りの場を提供することができました。時期的には収穫が終わっている頃ということで、残しておいたみかんが大霜や鳥の害でダメになってしまうかと当日まで心配でしたが、当日は青空の下、甘いみかんを十分に収穫してもらうことができました。東北地方の子どもたちにとって、自分で収穫したみかんを食べることは初めての経験だったと思います。みかん狩りの後は、「カフェ歩笑」の河野さんのご好意であたたかいぜんざいをいただきながら、岡山大学の久保先生のご協力のもといちばん甘いみかんのコンテストを行いました。糖度の高いみかんをエントリーした人たちには賞品もあり、大変盛り上がりました。大平中の生徒達が披露してくれた大平ソーランは、その力強さに集まった多くの地元の住民ともども感動しました。東北の地まで行くことは叶いませんが、香川まで来てくれた子どもたちを少しでも応援できたらという気持ちでいっぱいです。来年も、おいしいみかんを作って待っています。(中西健仁/S53-2 園芸作物・ケニア)

子どもたちはもちろんのこと、大人たちもあんなに全速力で走るとは！そしてキレッキレのソーラン！見ていて爽快でした。来年もぜひ、参加させてください。走らせてください。(若宮武/H21-4 村落開発普及員・セネガル)

さめき冬の修学旅行、今回初めて参加させて頂きました。とても素晴らしい貴重な経験をした3日間でした。我ら協力隊OB O Gの皆さんの熱い情熱と団結力、そして素晴らしいホスピタリティはもちろんの事、大平中学生のみんなの可愛らしさや、純粹さ、強さ、優しさ、たくましさで感動し感激し…。特に『上を向いて歩こう』の合唱には鳥肌がたち、『ライジングサン』と『大平ソーラン』の心こもった踊りにはなぜか自然と涙が出て来て、大げさでなく、魂が震える様なそんな不思議な感覚でした。私達が励ますまでもなく、中学生の皆さんは強くて大きくて、素敵なお力がありました。輝いている子ども達と、素敵な先生と、暖かいOB O G。本当に色々な思いがギュッと詰まった、素晴らしい3日間でした。また今回、一家総出(主人、私、子ども2人)で参加させて頂きましたが、子ども達にとっても本当に良い

経験になりました。8歳の娘は『上を向いて歩こう』が一番のお気に入りの曲になり、1歳の息子は楽しそうに踊っています。今後もぜひこの企画を続けて頂き、また大平の子ども達の成長を見守っていききたいなと思っています。ありがとうございました。(富田友美/H10-2 新体操・マレーシア)

みんなと走れたマラソン大会は、とても楽しかったです。『上を向いて歩こう』の歌もとても上手でした。私は、ピアノ(キーボード)で、上を向いて歩こうの曲をひけるようになりました。楽しかったです。(富田真歩/小2)

任期を終え帰国してからすぐ東京で就職が決まったため、香川のイベントに参加できずであったが、今回初めて飛び入り参加できてよかった。しかも最大のイベントと言われるさめき修学旅行に。今回参加して香川にいるOB会の皆さんがどれだけ下準備等を頑張ってやって来られたのがとても伝わってきた。OB会の皆さん、釜石の大平中の皆さん、国分寺中の皆さんすべてが一体となって作り上げたさめき修学旅行であったと思う。今回はリレーマラソンでたくさんの期待とプレッシャーをいただき(笑)、それを楽しんで走れた。中学生もOB会の皆さんも寒さに負けず、みんな元気よく楽しく走れた。とてもよかった。来年も参加できるなら今度は2km8分切りを狙いたい!

冬のさめき修学旅行は3ヶ年計画ということで、もし来年もあるなら仕事の都合で香川にその時期帰省できるかどうかは分からないが、もし参加できるのならみかん狩りやうどん作りも参加できればと思う。今回はさめき修学旅行に携わった皆さんに感謝したい。クロマララップ!(私の任地ミクロネシア連邦コスラエ島のコスラエ語の意味で「ありがとう!」(柏原庸一/H21-3 環境教育・ミクロネシア))

3日間しか関わることが出来ませんでした。釜石の子どもたちの頑張りや成長、そして引率の先生たちの子どもたちへの関わり、参加者全員の修学旅行に対する熱い思いを体感したことで「日本の未来は大丈夫だ!」と確信しました。リレーマラソンでは、ひとりふざけてカエルに被り物で走ってしまい申しわけありませんでした。来年は仲間をもっと増やしたいと思っていますので、ご協力いただけます方、ご一報ください。よろしくお願いたします。(田村美津子/H21-3 幼児教育・マラウイ)



ソーランやRising Sunの様子がYoutubeで見られます!

Rising Sun 【for Mobile】

<http://youtu.be/bydxbkaVHr8>

Rising Sun

<http://youtu.be/5G4Gm-BaOzE>

上を向いて歩こう

<http://youtu.be/7UCAXdIV4iU>

大平ソーラン 【for Mobile】

<http://youtu.be/6PtP5EI5poE>

大平ソーラン

<http://youtu.be/7-Ntnq72v4A>



スタッフのみなさん、  
お疲れさまでした！

## 大平中学校の生徒たちの感想文より

香川の方々に元気と感謝の気持ちをせいいっぱい届けることができたと思うし、香川でいろいろと楽しむことができたので良かったです。(今井大志)

香川に行く前は、自分達でしっかりできるのだろうかと不安と期待でいっぱいでした。しかし香川の青年海外協力隊のみなさんに支えていただき、楽しく冬のさめき修学旅行を過ごせました。その中でも私達は自分達の課題を見つけ、今後どうしていけばいいのかということも考えることができました。この4日間で学んだ「人とつながり」や

自分達のみつけた課題などをこれからの生活に生かしていきたいと思います。(長里優香)

初めての体験がたくさんあり、とまどう場面もたくさんありましたが、OBのみなさんが優しく教えて下さって、とても楽しくすごすことができました。私は、香川のみなさんも、香川も大好きです。あと、金比羅山も大好きです(笑)。家族にもたくさん自慢しました。この体験を通して、自分達は今、どんなことをするべきか、どんなことが足りないか、知ることができました。本当にありがとうございました。(鈴木夏歩)



では会長！恒例の最後のご挨拶を。

## 第2回冬のさめき修学旅行を終えて

高橋 和寛 香川県OB会長  
平成13年度1次隊 果樹 (ネパール)

前日の深酒(仕事の接待なので・・・)を後悔しつつ、重い頭を抱えて待ち合わせ場所であり、大平中学校御一行の宿泊先であるホテルリーガゼスト高松に到着した。今回スタッフとして参加してくれているOB会のみんなに軽い挨拶をして「朝飯食ってないな・・・こんなオシャレなホテルのロビーでコンビニのサンドイッチなんか食ってええものか？」とユルいことを考えていると、見慣れた青緑色のジャージの一人が降りてきた。「今年もまた始まったな」と一気に気分が引き締まった。同時に「あれからもう一年経ったのか」と一年前のことを一人思い出しながら、最初の目的地である中野うどん学校へのバスに乗り込んだ。

2回目となった「さめき冬の修学旅行」。実は昨年の第1回が終わってからこの企画を「いつまで続けるべきか？」という迷いがあった。JICA四国の長澤前支部長から、「こういう企画は3年は続けるべきだ」という意見を昨年の第1回の時に聞いたが、その時は意味がピンとこなかった。彼らは復興に向けて着実に力強く進んでおり、被災地も約2年前テレビで放映された瓦礫が一面に広がった光景とはかなり異なる様子になっている。

とはいえ大平中学校の生徒さんや先生方からは多くの元気をもらい、一参加者としては多いに充実した時間を過ごさせてもらい、特に3日目夜の旅館での大平ソーランでは先生方との話や、昨年の生徒達を思い出して涙があふれてきた。生徒からは「何泣いてんだこのオッサンは??」と気味悪がられていると思ったが、最後に生徒達と話をしていると、「来年も君たちの後輩とマラソン走れたらいいね」と言う「是非お願いします」という声が返ってきた。生徒達が、後輩にも同じ経験をさせてやりたい、そう思ってくれることが嬉しかった。同時に、昨年の長澤前支部長の言葉の意味が理解できた。そして3年という期間が確かにちょうど良いと思えるようになった。いつまで続けるか決めていればそれに向かって進めるのだ。

来年の第3回冬のさめき修学旅行、是非実現したいと思っています。被災地のこれからの復興を担う若者達とふれあい、交流できる。これは渡辺OGやJICA四国が作ってくれた香川県協力隊OB会の特権だと思います。しかも単発ではなく、組織として繋がった3年間のプロジェクトのフィナーレです。是非実現させると共に、過去最多人数のOBの参加をお願いします。元気を貰えること確実です。そして誰か最後の挨拶を変わって下さい。人前で泣くのは恥ずかしいので。

## 連載 | 愛染寺とパラグアイ (完結編) JICA 人事部付 長澤一秀

3回シリーズの投稿はしんどい。四国から人事異動しても、投稿の催促が来る。投稿OKと責任を感じてメールで返したが、追いかける気分は心臓によくない。今回も、提出がギリシャ旅行と重なってしまった。トルコ在勤時代のEUの友人宅で原稿書きである。

まず、初めに、岩手県釜石市の大平中学校の約20名を東日本大震災の支援の目的で「冬の讃岐旅行」として招聘した活動が大成功だったとの報告を受け、香川県協力隊OV会の皆さんの活動がますます発展していくことを応援しています。このような活動を通して、益々皆さんの絆が強くなっていく事を願っています。

またつい先日、協力隊OBを採用してくれた企業の社長から電話があり、非常によくやっているの、あと2名紹介してほしいとの依頼を受けた。海外経験の価値が重宝とされる時代がいよいよやってきた。香川県OBの方々がその期待に恥じない活躍をしていることをいつも誇りに思っています。皆さんに改めて感謝申し上げる次第です。

前置きが長くなったが、シリーズ3回目はいよいよ、愛染寺のことについて書きたいと思います。新聞で既に知っている方も多いかと思いますが、簡潔にしたいと思います。

### 南米の苦労人今雪住職

「今雪真善」和尚は若いころパラグアイに移住し、その後JICAの前身、移住事業団に入り、最後に四国支部長を務められた方だと伺っています。私自身、3度、志度に行く手前の愛染寺を訪ねたが、事前に連絡していかなかったもので、生憎、会う前に異動となり、大変残念に思っています。

以下、サンパウロ新聞（2010年10月15日号）からの抜粋。



### 南米慰霊の旅への出発 (2010年9月)

今雪さんは、1931年香川県で生まれ、真言宗を信仰する両親のもとで育てられ、般若心経を唱えてから寝る毎日だったとのことで、仏教に親しんでいたようである。

1956年、農業移民としてパラグアイに渡ったが、

翌年57年に海外移住事業団へ入団。9年間、パラグアイ・イグアス植民地などで現地職員として勤務した後、本部職員に採用され、日本、東京に帰国。業務上アルゼンチン、ブラジル、ボリビアなど南米各地への転勤が多かったとのこと。ボリビア所長の後、四国支部に異動になり定年を迎える。58歳の時に、郷里の善通寺で得度し、定年後の93年に住職の資格を得た。

その後、香川県からパラグアイへ日本語教師として1年間の派遣、帰国後香川県内の愛染寺と六万寺の住職に就き再建に携わった。

2010年8月六万寺を辞め、ついに当初の目標であった南米慰霊への旅の支度に掛かった。アルゼンチンのブエノスアイレス、ミシオネス、パラグアイのイグアス

移住地、ボリビアのオキナワ移住地などを訪れる予定を組み、2010年9月29日日本を発った。しかし、出発前の過労と長旅のため、体調を崩し、サンパウロで足止めとなり、パラグアイ行きは断念し、思うように法要が行えなかったとのこと。

2011年1月にパラグアイに出張した際、パラグアイ香川県人会会長の平井正孝氏にお会いしたが、南米移住物故者の霊を供養するために、今雪住職が訪問を予定していたが、体調を崩されて訪問できなかったことが非常に残念だ、と述べられていた。

また、同新聞によれば、「南米慰霊の旅は一度で終わらせてはいけぬ。これも何かの導きかな」と前向きに捉えており、「移住に関わった者として、南米で苦労された方々を弔わなければ、ここまで来た意味がない」と、南米法要の旅への決意を新たに、10月13日ブラジルからペルーへと飛び立ったとのこと。

### 南米移住物故者の慰霊碑完成 (四国新聞 2011年6月19日版引用)

四国新聞からの引用で、今雪住職のことを紹介したいと思います。

南米移住物故者への供養の思いを込めた慰霊碑が、香川県高松市牟礼町の愛染寺(今雪真善住職)に完成し、18日、同寺で慰霊法要が営まれた。参列者は日本から遠く離れた南米の地で亡くなった移住者の苦労を思い、静かに手を合わせた。

今雪住職(79)は24歳の時にパラグアイへ移住し、9年間現地で生活。日本人移住者の支援に取り組む中で、開拓に力を注いだ移住者の多くが、家族にもみとられずに亡くなっていく姿を目の当たりにしてきた。

このため、せめてお経をあげ物故者を弔いたいと僧侶になり、昨年9月にはブラジルやボリビアなど5カ国への慰霊の旅を挙行。霊魂が日本に帰って来られるよう、慰霊碑を建立した。

この日は今雪住職のほか六つの寺の僧侶が読経をあげ、移住物故者を供養。「南米へ渡った移住者」と題した講演や慰霊の旅のビデオ上映も行われた。今雪住職は「移住者の苦難は計り知れない。やっと皆さんの魂が日本に帰ってこれたと思う」と話していた。



### 愛染寺の様子

3度愛染寺を訪れたので、愛染寺の写真をいくつか紹介したい。

琴電志度線、房前の駅前で、海のすぐそばに立つ閑静なお寺である。お寺とは思

えない、こじんまりとした一軒家のような質素なお寺である。



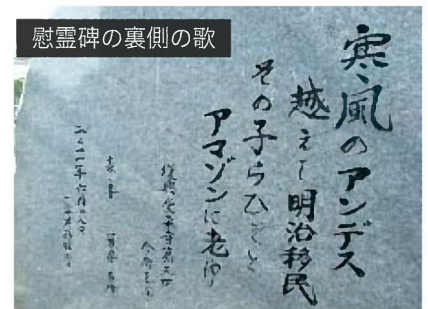
愛染寺全景



愛染寺入口

愛染寺の看板のところに南米物故者の慰霊碑が建立されているが、慰霊碑の裏側を是非見ていただきたい。裏の塀からのぞき見られるが、今雪住職の移住者への無念な思いがこぼれた歌が記されている。

寒風のアンデス  
越えて明治移民  
その子らひそと  
アマゾンに老ゆ  
(2011年6月18日)



慰霊碑の裏側の歌



愛染寺境内の中

パラグアイは南米で一番の隊員派遣国に第一号でパラグアイは南米のパラダイスと書いたが、JICAでは最も人気度の高い国である。協力隊の派遣人数においても、中米のホンジュラスとパラグアイはこれまで肩を並べていたが、治安が良いことと、日本との関係が深いこともあり、今年第一位となった。今後とも隊員



派遣人数中南米第一位の座を継続することは間違いなく。特に、香川県は日本とパラグアイとの最も長い交流の歴史があることから、香川県出身の隊員は大歓迎です。今後とも、赴任国に迷っている方があったら、パラグアイがいいよ、とサジェスションしてほしい。

また、第2号で記載したように、香川県から最初の移住者が移り住んだパラグアイ、ラ・コルメナ市とは草の根技術協力で「農産物の利・活用プロジェクト」を実施している。今年3月末で、3年間のプロジェクトが一旦終了することとなっているが、今後も何らかの関係が継続されることを望んでいます。

### 最後に：絆は大切

今雪住職は24歳でパラグアイにわたり、JICAの定年まで移住者の支援を継続し、さらには定年後も移住者の苦勞に身を寄せて、南米移住者の慰霊碑を建立し供養しないと、自分の人生は終わらない、とした。この80歳以上に渡る熱い生き様に本当に魅せられるものがあります。

香川県小豆島からパラグアイへの移住者が始まり、その移住を陰でずっと支えてきた日本人が香川県におり、しかも、南米で苦勞した戦前（明治）の移住者を供養する慰霊碑を愛染寺に建立したという

のも、奇遇ではない。香川県とパラグアイという縁、絆を大事にしてきた「人」がおり、また、それを継続しようとするのも「人」である。

今般、パラグアイと愛染寺との関係を少しでも、知ってもらいたいと思い、クリキンディに投稿したが、3回に及んでしまった。この投稿記事を書いていて、改めて、縁、絆は大事にしようという思い、人がいなければつながらない、と思ったものです。また、国際協力（交流）は人が作り上げる長いドラマだと感動します。

最後に、釜石の中学生を呼ぶ「冬の讃岐旅行」も是非、継続してほしいと願うものです。日本において素晴らしいドラマを作り上げてほしいと思うものです。

(完)



昨年の「冬のさめき修学旅行」にて

## 編集後記

先日、冬のさめき修学旅行の反省会を兼ねた打ち上げが開催され「今年もとても楽しかったね」と思い出話に花が咲きました。ラストオーダーのあと、どれくらい粘ったでしょうか（笑）時間が経つのを忘れて話し込んだ夜でした。旅を振り返るだけで涙目になる、あったかいハートの持ち主、高橋会長。段取りに奔走しつつも周りを見渡し全員にきっちり活躍の場を与え、労うことも忘れない渡辺さん。素敵なリーダーたちと一緒に2回目の冬のさめき修学旅行を開催できたこと、嬉しい限りです。参加したOB皆、同じ気持ちだと思いますので、この場をお借りして、お礼を言わせてください。いつもありがとうございます！（クリキンディも毎度がっつりご協力いただき、本当に頭が上がりません！）

さて、この3月で任国から帰国して丸2年になります。帰国直前に起きた衝撃の東日本大震災からも、丸2年。先日、昨年末に現地でボランティア活動を行って来た方々にお会いしお話を聞く機会がありました。必要な支援の形は変われど、まだまだやらなければならないことはたくさんあるよ、とのこと。ふと協力隊の任期を終えたときに感じたことを思い出しました。2年間で出来ることは限られていて、さらに自分ひとりの力で成し得たことなどなかったな、と。3.11からもう2年。されどまだ2年。被害を受けた地域のみならず、支援を行うみなさんも本当に頑張っていて、その力は確実に復興を進めています。これからもみんなで知恵を出し合い、手を携えて取り組んで行くべき課題がたくさんあります。私たちは任国で、現地の人々にいろんなことを助けてもらい、たくさん思いやりをもらいました。同じ日本人同士なら、そのやりとりはもっとスムーズに出来るはず！（20-4 高橋梓）

クリキンディ 第10号  
（2013年3月11日発行）  
発行：  
香川県青年海外協力協会 会長 高橋和寛



お世話になりました！  
ぜひまた香川でお会いしましょう！

## JICA四国支部に 水谷 新支部長が着任されました！！ ★ご挨拶のメッセージが届いています★

みなさんはじめまして、水谷と申します。

1月から、四国勤務となり、福島県二本松から転勤してまいりました。生まれは九州、福岡です。大学卒業後、青年海外協力隊に参加、アフリカ、マラウイ共和国森林・天然資源省へ派遣され、3年間活動したのが、国際協力にかかわるきっかけでした。

その後、JICAに入り、東京の本部と在外事務所を往復しつつ、パプアニューギニア、フィジー、マラウイでの勤務を経て、大震災後に福島、二本松へ。二本松訓練所に勤務し、香川を含め四国出身の方々を思い出しながら、現地での活動、どうしているかな？と時折、思っております。

四国4県にて「青年海外協力隊」「シニア海外ボランティア」「研修員受入」「草の根技術協力」「中小企業海外展開支援」等JICA事業をご活用いただくべく、もっとJICAを使っていただけるよう、微力ながら尽力する所存ですので、協力隊事業のみならず、いろんな場面でご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

当面、香川では農産物直売所めぐりとうどんや100軒をめざしますのでおすすめの場所等ご教示いただけると幸いです。なにとぞ、よろしく申し上げます。

水谷 恭二 拝

